

8/6
吉村

8割の医療機関 収入減

持続化給付金 要件厳しい

30%以上減が2~3割

新型コロナウイルス感染が拡大する下、
全国保険医団体連合会(保団連)は5月診
療分について、会員医療機関を対象にした
緊急アンケートの結果を公表しました。前

年同月と比べて、5月の外来患者は約9割
の医療機関で減少。保険診療収入は医科が
83・7%、歯科83%の医療機関で減少した
ことが明らかになりました。

30%以上収入が減った歯科が3割弱でした。

医科は医科が2割、由記述欄には「30%減が
が悪化してからなど重症化してからの診察が増え
ていて」「緑内障で治療中の患者の眼圧上昇発見
が遅れ、失明した」「80%

ています。

保団連調査

続いたら一年で閉院にな
る」「収入が激減してい
るのに、ボーナスは前年

通り出し、危険手当1万
円を支給し、本当に

浮かび上がりました。
受診控えについては、

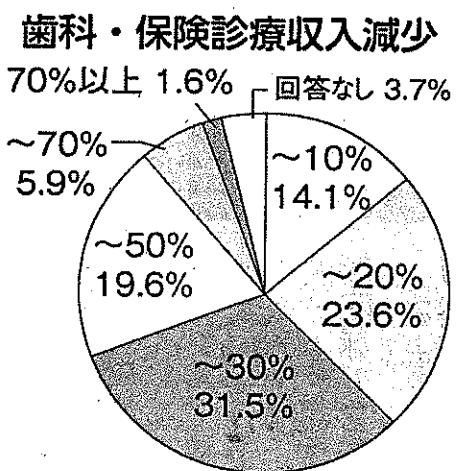
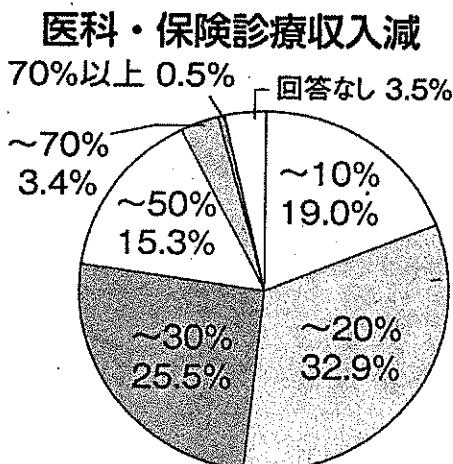
「脳梗塞が巨大化、心不全
が悪化してからなど重症

化してからの診察が増え
ていて」「緑内障で治療

中の患者の眼圧上昇発見
が遅れ、失明した」「80%

政府の持続化給付金を
めぐっては要件である
「前年同月比で売上が50
%以上減」の要件が厳し
いと訴える声が多数あり
ました。「30~50%の減
少で半分程度の支給があ
れば助かる」と寄せられ

た。
代の患者さんは、よほど
症状がつらくならない
と受診せず困っている」
などの事例があります



保団連は医療提供体制
の確保とともに、減収補
償を含む財政措置が求め
られていると強調してい
ます。

24都府県の保険医協会
が実施、6622件の回
答を得ました。(医科3
975件、歯科2647

件)